

黒牧18号ブイ設置予定海域海底地形調査

漁場環境科 浜田英之

1 調査海域

平成12年度沿整事業で足摺岬沖に設置予定の黒牧18号ブイに関し、図に示す東西約6km、南北約9kmの海域の海底地形調査を実施した。

2 調査方法

水試調査船「土佐海洋丸」(48トン、750馬力)を使用し、平成12年7月18日、19日の2日間調査を実施した。測線は東西、南北にそれぞれ1' 間隔で設定した。調査船は約12ノットの速力で航走させ、DGPS受信機およびプリンターを利用して測位とその記録を行った。調査中の航跡についてはコースプロッターでも描かせた。

測深儀としては調査船に装備されている28kc 魚探(フルノ FE-822、出力10kw)を使用した。過去の調査例や水深等から判断して今回の調査海域の場合、音速補正值は理論上+10m 以内と考えられ、補正值としては10m 未満なので測得水深に対する音速補正は行わなかった。

また、黒牧18号ブイの設置位置については地元調整の結果、ロラン C9970チェーンにおける時間差37

700・58300の位置で決定されているということであったが、9970チェーン自体がすでに廃止されたいわば架空のチェーンであり、時間差37700・58300の位置の緯度・経度については調査船「土佐海洋丸」に装備された古野電気製 DGPS 受信機 GP-1610C のロラン C ⇔ GPS 位置換算機能を利用して求めた。その際の時間差補正は、水産試験場灰方棧橋において3万台+4.7 μ s、5万台+1.3 μ sとした。

3 調査結果

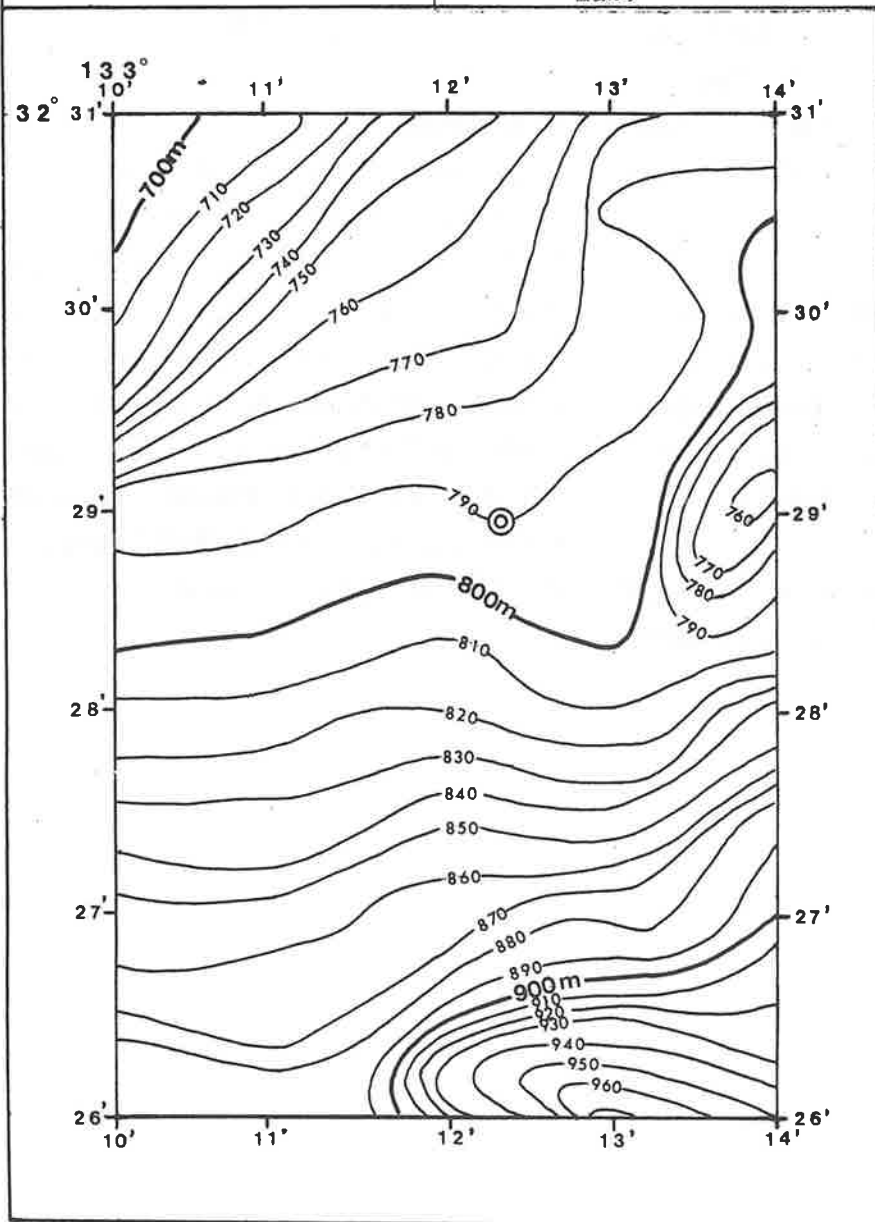
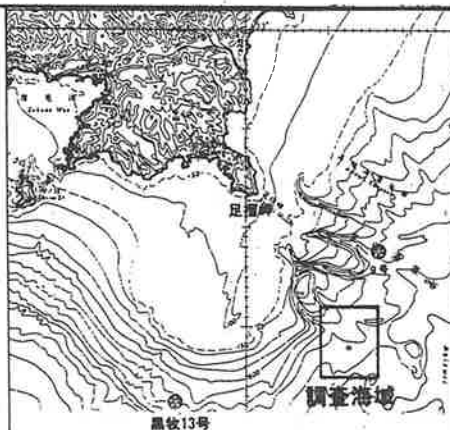
東西約6km、南北約9km の調査海域の北西部および南東部には足摺海底谷群の一部と考えられる急傾斜の海底が見られ、その勾配は北西部で約20分の1、南東部で約10分の1となっている。また、調査海域の中央部東寄りの海域には周辺の海底より約50m隆起した小海丘状の海底地形が見られる。一方、地元調整で選定された黒牧18号ブイ設置予定地点(32° 28.9' N、133° 12.3' E、水深790m)付近はほぼ平坦な海底が広がり、その勾配は100分の1程度でブイ設置に支障は無いものと考えられる。

黒牧18号設置予定海域 海底地形

平成12年7月 高知県水産試験場測量



備考：測位にはDGPS受信機を使用した。



黒牧18号ブイ設置予定位置
ロランC 9970チェーン
37700・58300 位置

⊙--- 北緯 32度28.9分
東経 133度12.3分

水深 790m